

「MOX燃料加工施設に関する県民説明会五所川原会場」議事録

日 時 平成17年2月25日(金)

9:30~11:35

場 所 五所川原商工会館「多目的ホール」

【司会】

お手を挙げて頂ければ回収に伺いますので、今まで頂いた部分についてそれぞれ関係機関から回答させていただきます。まず一つ目の質問、これはまず日本原燃に対してだと思いますけど、MOX燃料だと思います。検査で不合格になった燃料は、廃棄物になるのかどうかというご質問です。これについて原燃の方から、社長、お願いします。

【日本原燃株】

日本原燃の兒島でございます。ご回答を申し上げる前に、私から一言御礼のご挨拶を申し上げたいと存じます。本日は、皆様大変お忙しい中、この説明会にご参加を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。また、日頃から私どものサイクル事業に対しまして格別のご理解とご支援を賜っていることを心から厚く御礼申し上げます。お陰様を持ちまして、再処理工場のウラン試験につきましては、昨年の暮れから実施をさせて頂きまして、一步一步慎重ながら、一步一步前進をさせて頂いております。この再処理工場から生産されると申しましょうか、あるいは取り出させてまいりますウランとプルトニウムを使いまして、これを新しい燃料に加工するのが本日ご説明申し上げたMOX燃料工場でございますが、この新しい燃料をもう一度、各原子力発電所に戻して、新しく電気を作る燃料として使うという燃料を作るのがこの工場であります。この工場につきましては、今、大桃主査、小山委員から説明がありました。安全性については、私どもきちっと建設ならびに運転をやっていくということで、安全は確保されるというご報告を頂戴致しました。ご報告の通り、私ども品質保証体制をきちっとやって、第三者の監査もきちっと受けて、漏れのないように建設ならびに運転を進めていくつもりであります。また、それぞれ一步一步の工程、あるいは運転の状況については、日頃から、状況をご報告申し上げていく情報公開をきちっとやりまして、皆様方に透明感のある事業展開をして参ることを約束申し上げます。これからも、一生懸命頑張っておりますので、是非皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございます。それでは、これからご回答申し上げたいと存じます。

【日本原燃株】

日本原燃の出口でございます。お答え致します。燃料の製造の過程で、検査をやりまして、検査をやった時に、一部不合格という物が出てまいります。この不合格になった物をどうするのかということでございますが、先程ビデオでございましたように、出来上がったペレットを検査して、不合格になった物については、一カ所に集めまして、このペレットをもう一度粉に致します。これを粉碎と申しますけど、粉に致しまして、その粉をリサイクルをして使うということに致します。それから、燃料の被覆管というさやの中に詰めた物を、これも検査をしますけれども、これがもし不合格になりますと、これもそのさやを壊

しまして、中に入っているペレットを取り出しまして、これももう一度粉にして再利用するということを致します。ということで、不合格になった物が廃棄物になるということはありません。以上でございます。

【司会】

2、3まとめて回答させて頂いて、その中でご質問頂いた方から意見、あるいは再質問があれば、また、頂戴したいと思いますので、よろしくお願いします。次の質問でございます。東海のMOX工場で、過去事故や作業員が被ばくしたという事例はあるのか、どうかという質問です。日本原燃からお願いします。

【日本原燃株】

お答え致します。先程、チェック検討会の先生からご報告がありましたように、東海村のMOX燃料を作る施設は既に三十年以上の運転をして来ているわけでございますけど、この中で火災だとか、爆発だとかという事故は起きておりません。勿論、臨界も起きていません。ただ、グローブボックスで、作業員がグローブに手を入れて、作業をしている時に、グローブが機械の突起物にひっかかって破れたというようなことはございます。破れてごく少量のプルトニウムがグローブボックスから漏れて作業員が吸ったことは過去あるようでございます。ただし、その場合でも、法令に定めております被ばくの以下というようなことになったと、聞いております。プルトニウムを扱う場合には、このグローブボックスで作業をする時にグローブに傷が付かないように、そういう作業をするような訓練や熟練が非常に重要だと思っておりますし、また、中に入れます機械なんか突起物がないようにするという配慮をして、機械を作ることが重要だと思っております、私どももできるだけグローブが破れて、プルトニウムが外に出ないような対策を取る考えでございます。

【司会】

あともう1問、回答をお願いします。安全性チェック検討会のご説明、よく判りました。何と言っても、施設で仕事をなさる人たち、住民の安全上で気になりますが、今日説明なされた検討会の方々が今後とも六ヶ所原燃のMOX燃料加工施設に関わって、安全チェックに関わって行けるのかどうかということについて、お問い合わせがございました。主査の方から、お願いします。

【安全性チェック・検討会】

安全性チェック検討会の委員は先程申し上げた6名おりますが、検討会の役割は一応報告書を提出した段階で、終了ということになります。しかしながら、個人としては私も小山も、これに関心を持っていくことは勿論でございます。ただひとつお答えしておきたいことは、青森県六ヶ所村にはですね、県の要請に応じて、国が作ったかなり大きな研究所がございます。その研究所の名前は環境科学技術研究所と言いまして、そこでは放射線の環境に与える影響、それから人体に与える影響を総合的に研究する施設でございます。そこは1990年に開設されまして、これは少なくとも数十年は動き続けると思っておりますので、たまたま私も小山も、そこで働いてございます。

【司会】

これまでの3問に対する回答をさせて頂きましたけど、今までの3問について、追加的に聞きたいとか、あるいはご意見を発言したいと思う方がいらっしゃれば、お手を上げて頂ければ、マイクをお持ち致します。

【会場から】

原子力という危険な物を作るんですけど、補償金が来ていないわけです、補償金。補償してもらいたいと思って。補償金というのは、この間も浪岡の町長が指摘したように、とにかく県知事は金持ちになると、県の職員も金持ちになると、そういうことで、県知事に200億払ったのであれば、こちらにも一人当たり200億払ってほしいと、そういうことです。補償も何もしないのであれば、撤去してほしいということでございます。県の知事や県職員に金を払って、あとは補償しないということはどういうことなんですか。

【司会】

意見として伺っておきますけど、今のご意見については後で回答させて頂きますけど、3問ですから、まだ全部終わったわけではございませんので、途中途中で、ご意見を追加でしたい方にはマイクを差し上げて、ご意見を頂くなり、質問をして頂くということにしたいと思っておりますので、途中途中で区切りを入れながら、やらせて頂きたいと思っております。これまでの3問の関係では、よろしいですか。それでは、次の質問に移させて頂きます。日本原燃に対して、MOX燃料製造の工程で最も安全上注意の必要な工程はどこになるのか、また、その安全対策はどのようなものを考えているのか、お知らせ下さいというご質問でございます。日本原燃の方から、お願いします。

【日本原燃株】

お答え致します。私どものMOX燃料製造工程では、原料としてMOXの粉末と、それからウランの粉末を取り扱います。この粉末は酸化物という形態の粉末になっておりまして、ともに化学的に安定な物質でございます。この安定な物質を大部分の工程では常温で常圧の状態で行うということでございますので、それほど危険なものはないということでございます。ただし、ひとつだけ、先程チェック検討委員会の方から説明がございましたけれども、ペレットを焼き固める際に、1700 という高温で水素ガスの中で焼き固めるという工程が一カ所ございます。やはり、この工程がMOX燃料製造工程の中では注意がある工程だと思っております。というようなことで、私どもは焼結炉の中で1700 の高温で焼き固めるということで水素ガスを使いますが、この水素ガスの爆発ということを防止するために不活性ガスと言います、非常に化学的に活性ではないアルゴンガスで薄めて使うことも考えてございます。約数%、5%程度に薄めて使うということで、爆発なりが起らない形で使うということで考えてございます。ただし、やはりこういうような対策を講じますので、爆発ということは起きないと思っております。諸外国でも、焼結炉での爆発ということは一件も起きていませんし、また同じような工程はウランの燃料を作るところでもあるわけでございますけど、そこでも起きておりません。ということで、私どもはそういう対策で十分安全であろうと考えているわけでございますけれども、万が一、例えば空気が入って爆発

が起こったとしたら、どうなるかということで、最大想定事故と呼んでおりますけど、そういうことが万一起こった場合に、どういう影響があるかについても、評価をしてございます。その場合でも、周辺環境に与える影響と申しますと、非常に低うございまして、ミリシーベルトという単位で申し上げますと、0.01ミリシーベルト未満と、非常に低い値でございます。これは、例えば、皆さんが自然から受ける放射線による影響は、年間2.4ミリシーベルトと言われておりますが、それよりも十分小さいですし、また、健康診断で胸のレントゲン写真を撮るわけでございますけど、0.05くらい出る。それよりも十分小さな値で、万が一を考えても、皆さんに影響を与えないような安全対策を講じているところでございます。以上でございます。

【司会】

今の回答に近いものがありますが、もう1問、類似の質問がございます。プルトニウムを1700で焼くということですが、爆発したり、臨界になったりしないのか、水素ガスを扱うということですが、安全か。焼結工程でアルゴンガスを使用して安全ということですが、この工程外のパイプ等で爆発したりすることはしないのか、今の焼結の関係もございまして、補足があればお願いします。

【日本原燃株】

お答えします。今ご説明申し上げましたように、焼結の工程では高温で水素を使うことで、爆発防止対策ということで考えてございます。先程申し上げましたとおり、アルゴンガスという物で水素を薄めまして、爆発がしないような、あるいは爆発しても、非常に被害が低いような形のところで水素ガスを使うと考えてございます。それから、このパイプのところで起きないかということでございますけれども、例えば水素ガスが部屋の中で漏れたということ考えた場合、水素ガスが部屋の空気で薄まって、爆発をしない状態になりますので、その他の所で爆発が起こるということはありませんと思っております。

【司会】

もう1問、お願いします。飛来物と地震の関係でございます。地震・飛来物対策は万全だと考える。ただ、万一の事故による被ばく者への配慮、病院の専門のドクターの配置に対する対策はどうなっているのかというご質問がございました。まず、日本原燃の方から。

【日本原燃株】

被ばく事故に関しましては、まず工場内におきまして簡単なものは除染しまして、必要な怪我の部分を治療するためにしかるべき病院に搬送したいと考えてございます。工場内で除染を致しましても、なかなか除染が取れないという場合には、そういうこともできる専門の病院に搬送することを考えておりまして、具体的には八戸市の青森労災病院の方へお願いして、そういうお願いする約束をしているところでございます。以上でございます。

【青森県】

県の方から申し上げますけれども、私どもの方では、例えば六ヶ所村の原子燃料サイクル施設で万が一

故が生じた際の対応ということで、青森県地域防災計画原子力編なるものを策定してございます。これは法律、具体的は災害対策基本法、それから原子力災害特別措置法などに基づいて策定しているものでございまして、いろいろやっているわけですが、その中で緊急時被ばく医療の関係も定めてございます。まずは現地、六ヶ所村の方になりますけど、医療チーム、避難所を設けまして、そこで医療チームを編成しまして、これは3つほどに分けるんですね。スクリーニング・チーム、これは要するにふるい分けをする。あなたは大丈夫です。あなたはもうちょっと寝てください。あなたはとふるい分けをした上で診断する、どの位の程度であるか。あるいは洗い流しと言いますか、除染をやる。それから、とりあえずの救護をやる、そういったチームを設けて活動します。間に合わない場合も相当想定されますので、そういった場合のために、初期被ばく医療、それから2次被ばく医療、3次被ばく医療という形で医療機関を指定してと申しますか、指定してございます。1次というのは具体的には外来治療でございます。それから2次というのが入院治療、3次になりますと、これは本格的な被ばく患者となり専門的な治療を行う病院ということになります。具体的に六ヶ所村の場合に即して申し上げますと、例えば初期被ばく医療という病院になりますと、公立の野辺地病院とかになります。それから、2次被ばく医療になりますと、八戸市立市民病院であるとか、県立中央病院、それから3次となりますと、本格的なものになりますけど弘前大学医学部付属病院あるいは、これは千葉の方にあると思えますけど、放射線医学総合研究所なるものがございます。そちらの方で対応するというところで計画を定めてございます。

【司会】

次の質問でございます。MOX工場から毎年放射性廃棄物が千本も出るようですが、最終処分はどういうことになるのかについて質問がございまして、回答をお願い致します。日本原燃の方から、お願いします。

【日本原燃株】

お答え致します。私ども、MOX工場を運転致しますと、固体の廃棄物というのが出てきます。これはどのような物かと申しますと、中で使った紙であるとか、布であるとか、そういうふうな可燃物、それからグローブボックスに付いておりますグローブでございまして、このグローブは定期的に交換しますので、こういった物も廃棄物になります。それから、中で使った工具であるとか、フィルターであるとか、そういった物が廃棄物として出てまいります。これら、私どもは年間で200リットルのドラム缶換算で千本位発生するかと考えてございまして、この廃棄物につきましては、MOX工場内の一時保管庫、あるいは当社再処理工場の廃棄物保管庫に保管・管理するというところで、私どもは考えてございます。

【資源エネルギー庁】

資源エネルギー庁でございまして、引き続きまして、回答させていただきます。MOX燃料加工工場の稼働に係る廃棄物については、当座はアルファ線の強い物等もございまして、どの位の期間、当面貯蔵していか、それに引き続いて、この廃棄物をどのような形で処分するのが適当かにつきまして、今後適宜適切に処分できるよう、国と致しまして、事業者を指導してまいりたいと考えております。

【司会】

今まで、3問程まとめて回答させて頂きましたけれども、これまでの3問について何か、追加でご意見あるいはご質問等があれば、手を上げて頂ければ、また、マイクをお持ち致します。よろしいですか。次の質問に移ります。次は日本原燃に対してでございますけれども、説明会の度に安全確保に自信の程の説明をされていますが、それでもなおかつ事故のニュースが絶えない。その不安を無くするための対策は、どんな説明をなされるのですかという質問です。日本原燃の方からお願いします。

【日本原燃株】

このところご指摘のようなことでご心配をお掛け致しまして、申しわけないと思っております。少し、ご説明させて頂きますと、まずは設計ミスでございますけれども、ポイントは設計変更の時に十分な関係者によるチェックがなされたか、どうかというところが一番大事なところであったと思います。しかし、設計変更が今回の問題を生じた設備については平成8年と平成13年に行われておりまして、実はこの時に関係者による十分なチェックがなされなかったという事実がわかってございます。当時の私どもの品質保証、あるいは関係するメーカーさんの品質保証、これが十分機能していなかったということは誠に申しわけなく、率直にお詫び申し上げます。昨年、先程のご説明の中にもございますけれども、私どもの会社の品質保証の仕組みを大幅に手直し、改善致しました。従いまして、仮に今の時点であいっただ設計変更が行われる場合には、そこを確実に見落とさずに、見つけ出して関係者によるチェックがなされる、そういう仕組みであることも確認致したところでございます。何卒ご寛容、ご理解賜りたく存じます。それから、もうひとつ先週硝酸性溶液の漏れを発生させてしまいました。これは、端的に申しまして、この設備は操業後も使う設備ではなくて、試験のために一時的に設置した設備でございまして、そこに対する目のつけ方が確かに、ご指摘のように十分ではなかった、これまた、お詫びする次第でございます。実は、このウラン試験なる物は、既に昨年の秋以来、私ども発生するかもしれないトラブル事例なるものを公表させて頂いております。190という数のものでございました。その中でも、今回の硝酸性溶液の漏れに極めて類似した、起こるかもしれないトラブルの中に入っております。つまりこれは予期されたと申しましょうか、そういう事例でございます。これはできるだけ、私ども事前に見つけて対処するというのが原則でございますけれども、なにせウラン試験の対象設備というのは大変に膨大な物でございます。たまにはトラブルは発生することはお許し頂きたい。ただし、外部に放射性物質を放出するとか、環境に影響を与えたりとか、そういう物では決してございませぬ。そういうことでご説明させて頂いております。そういうことで今回の件は、勿論事前に見つけ出して、発生を防止できれば良かったんですが、残念ながらああいうことになりました。これは私ども、反省点を見つけ出して、私どもの品質保証の一層の改善に結び付けていくということで考えてございます。今後とも、ウラン試験を実施していく中では、他の原因による硝酸のじみとか、漏れとかいうものはないとは残念ながら断言できませんが、重ねて申し上げますが、放射性物質を環境に放出する、あるいは環境に影響を与える、こういう物ではないことをご理解ください。本格操業はこういうことがないよう安定して安全に動かせる、操業できるよう、できるだけ不具合があれば、今の段階で見つけ出すという努力をしていることをご了解頂ければと思います。以上でございます。

【司会】

次の質問に移ります。類似の質問ですのでまとめて質問を読み上げますので回答をお願いします。下請けとの関係でございます。ガラス固化体貯蔵施設との件、硝酸漏れの件とも下請け工事という点から考えれば、第一義的には下請け会社の施工責任・管理の中に問題があったのかと思います。今後下請け工事で工事が進む中で膨大な量の工事を安全に、そして確実に進めていくためには発注者側、下請側、それぞれの役割を確実に果たしていくことが大切だと思いますが、発注者として下請け業者の管理体制等について、関わり方をどのように見直していくのか、教えてください。それから、似たような質問でございます。先般の下北の事故について、下請け業者の意識があつた事故に繋がつたと考える、職員の意識は無論であるが、下請け業者の方の職員の意識の向上も問題に関わると考えている、という下請けとの関連に関するご意見・ご質問がありましたので、まとめて日本原燃の方からお願いします。

【日本原燃株】

私ども、原子力施設を操業して事業を行う者は、原子炉等規制法という法律がございまして、その中で当該施設の建設であるとか、あるいは操業であるとか、こういったものについては、全責任を私ども日本原燃が負う。こういう位置付けになっております。ただし、その施設を建設する段階においては、私どもが機械をすべて作り、あるいは工事をを行い、というわけにはまいりません。私どもはしかるべく、専門のメーカーさん、あるいは専門の工事会社さんとの間で契約を致しまして、その契約に基づいて、仕事をやってもらうという仕組みになっております。仕事ををお願いする際には、それぞれ作業の安全であるとか、あるいは作って頂く施設の性能だとか、機能とかについては私どもから要求を出して、これを確実に作業安全の中で実現していくということを彼らに求めておるところでございます。先程説明致しました設計ミスとか、あるいは一部部材が腐食性の部材であつたことにつきましては、まずは第一に責任は仕事をお願いした相手さん、元請けさんと申しましょうか、専門メーカーさんと申しましょうか、そういうところにあると考えてございます。ただし、冒頭申しましたように、私どもは建設、操業に全責任を持っている企業でございますので、そういう意味で私ども責任を免がえるものではございません。今後、こういうことの再発を防ぐという意味では、昨年来、協力会社さん、今の元請けさんですとか、専門メーカーというところでございます。こういう協力会社さんとのコミュニケーションを十分に持つと、さらにコミュニケーションの中で、私どもの社員のみならず、その関係する社員にも同じく、等しく安全意識を持ってもらうことが大事であると思っております、今後なお一層努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

【司会】

今までの回答の中で、なにかご質問、ご意見、ございますでしょうか。今、マイクをお持ち致します。

【会場から】

今、説明会の持ち方について、普段から思っていることを話してみたいと思っているわけでございます。私もこの会場でいろいろ原燃に関する説明会に3回か、4回来ております。来て集まった方々の顔ぶれを見ておりますと、大抵推進派の団体の方々が圧倒的に多いと感じております。それから、こういう大事なものですから、必ず賛成・反対あると思います。反対の団体の方々もちらほら顔を出している。これは前にも、新聞にも指摘されておりましたけれども、県民にPRするために、言わばこの説明

会の持ち方というのは、なにか問題が起きたり、事故があった場合の後で、持たれて、お詫びしたり、今までの経緯を説明したり、そういう形の説明会ばかり多いなと感じているわけですからこの説明会、県民に対する説明会、県民の中でも、私も五所川原にいて、だいたい推進派に入っているグループに入っている一員ですけども、説明会をやっても、自分の意志で来ているわけではありません。はっきり申し上げると、団体から電話連絡があったりして、駆けつけているという、ざっくばらんに申せばそういう形でここに来ているわけで、ですからそういうわけではなく、本当に大事なものは県民にPRしていくために、多くの県民の考えを持つためには、もっと中間層の、言わば、悪い言葉で言うなら、無関心の方々、そういう方々をいっぱい集めて、そして素晴らしいものなんだと。私たちの生活が豊かな物になっている原動力になっている施設なんだということをもっと前進的にPRしてもらいたいとする説明会を開いてもらいたい、そういう説明会を開いて頂きたいと一県民としての願いがあるわけで、たださっきも万が一というお話がありましたけれども、原燃に対しては、最初日本の原燃は外国の原燃と違うんだと、世界の科学の粋を集めているから、失敗だとか、そういう物は絶対あり得ないという答弁がずっと昔はなされていましたが、やっぱり人が作る物ですから、ちょっと問題が出てくると。今の説明会では絶対安全だと誰も一言も言っていません。万が一という、その万が一のデータは決して、簡単に言うと、私たちは放射線を浴びているのもそんなに危険はないと判りやすい説明でいい。そんな説明をできるならば、東奥日報あたりでも原燃の広告が大きく書いております。そういう紙面でも、こんな良いところがあるんだと、それから良い物を作るにはリスクがあるんだと、こんなリスクもあるんだとはっきり書いておけば、一般の県民の方々に浸透していけるんじゃないかなと。良い物の中には、必ずマイナス面があるので、そういう説明会の持ち方をこれからいろいろな事情はあるとは思いますが、そんなことを申し上げたいと思っております。できるならば、そういう原燃の青森県が豊かになるための一つの基になるエネルギー問題の解決、これ一つを申し上げたい。会場の説明会で、津軽生まれですから、なんとなく反骨といった物がちょっとありまして、当たるか当たっていないか、判らないですけど、最初に来た時には、私たちはこの会場は主催者側の方々を下に並び、主催者側のテーブルの上にお茶が上げております。私たちの方には、お茶はありません。私たちはお茶の問題ではないと思います。お茶の問題、食べ物の問題、飲み物の問題を言っているのではなく、奇異に感じたわけです。最初は二回、三回と慣れるに従って、人の考えとはおかしいものであり、今日入って来た時には、さほど感じていなかったわけです。前々回にも会合が終わった後、一緒に来た仲間とともに、あれで今日の会場設営はおかしいと。これは県で主催しているもの、あるいは原燃さんで主催しているもので、会場設営の仕方が多少変わってきてもやむを得ないと思います。例えば五所川原市で主催して、お呼びしている場合、そういうことを考えて、今日は青森県で主催してやっている事業で、ですから具体的に言うと、青森県の方々のテーブルにはボトルは要らないのではないかと。遠くからお出でになっている方々は、講師という形で接待してもいい。これは、私一人ではないと思った。新聞の明鏡欄にも出ていました。下北、上北、八戸の方でやった。やっぱり、原燃の説明会出てみて良かったけど、最後の方に私が考えている雑壇にはジュースが置かれて、私たちのところにはない。先程、私が言ったことと同じことが新聞の明鏡欄に出ていました。私と同じ考えが、下北・南部の方にもいるんだと思ひ、切り取って持っていますけど、それを読むのはやめますけど、会場設営に関する物も、ひとつ係りの方は考えて頂ければ、私たちの目線と同じ立場で、ご説明してくればもっと、人ですから感情的になる。飲み物、食べ物も昔から言われていますけど、こういうことで、これから会場設営についても、きめの細かさというもの、人の考えの機微といったもの、ちょっとのことでがらっと変わった時もありますの

で、これで終わりです。

【司会】

会場設営の方は私の責任ですので、今頂いたご意見は今後肝に命じて、今後の進め方については、十分配慮するようなことにさせていただきます。

【会場から】

推進派が多いと言いましたが、私も始めから推進派ではなかったんです。いろんなものを聞きながら推進派になりましたので。パーセンテージで言えば、推進派が多いと思います。それで、当然だと思います。だから、反対派の会合を持つことも必要ではないかと私は思います。反対派も何回か、何回か研修するうちに推進派になります。そういうことで、私の仲間は全部推進派です。ただ、その中で、これだけはやってもらいたいなということがあって、毎回参加しています。そういうことで、推進派は圧倒派で当然だと思います。どうぞ、推進してください。

【司会】

他にもご意見ありますので、今頂いたご意見をご報告させていただきます。まずは、資源エネルギー庁に対してまして、地球温暖化が叫ばれている世の中で、このような事業は資源に対しては不可欠だ、ただし原子力安全に対して不安がないと言えようことになる。日本原燃も万全の安全を尽くしてやっている事業であるから、あまり騒ぎ立てないで説明会等を催したらよいと思う。我々県民は安全性を信じて賛成しているから、県側でも地域の不安になるような事柄の再発は避けてほしいというご意見がございました。次のご意見でございます。このような事業は県も雇用のためにも最良の施設だと考える。全国最下位だと言われる有効求人倍率の低いわが青森県を考え、推進・継続が必要な施設と考えるというご意見がございました。それから、MOX燃料加工施設は資源のない我が国には非常に重要な物だと考える。安全性を十分に確保して着実に進めて頂きたいというご意見でございます。それから、もうひとつ、ご意見がございました。私たちは通常原子力関連の本を読んだりする機会もあまりなく、知識を持っていませんが、今日のような説明会は勉強の意味からも大変ありがたい。最近の新聞等には原燃のことが多く報道されているが、あまり良い報道はされず、トラブルとか不良工事ばかりである。原子力、そしてMOXの必要性は理解している。理解してからこそ、日本原燃はしっかり工事を実施してほしい。そして、しっかりとやっている姿を新聞に記載されるようになって頂きたいというご意見が寄せられてございます。ここまでが、休憩時間に頂いたご意見、あるいはご質問をまとめて回答させていただきました。その他に、せっかくの機会ですから、もう一度、あるいは書くのはためらったけれども、発言はしたい方がいらっしゃれば、マイクをお持ちします。

【会場から】

さっきも話したけれども、補償をちゃんとやらなければならないと思います。補償というのは原子力があれば、だいたい会社は来ないわけです。それで、青森県の有効求人倍率はものすごく低い。これも、原子力があるから、そうなっているわけです。それに対して補償もなにもしないと言うなら、とんでもないことです。県知事に200億補償し、県の職員に30億補償したというものですから、県民にも補

償が必要だ。そういうことです。原子力があるものだから、産業が来ない。それに対して補償してもらって、それでもって産業をおこし、有効求人倍率を全国最下位から平均までもっていく。そういうことから、金を払ってもら。県知事にだけ200億払うのはだめということです。

【司会】

今、雇用の関係と補償の関係のお話ですので、県の方からお願いします。

【青森県】

補償という話がありましたけど、一般的に原子力の関連施設が立地することによって、別な方向に悪い影響を与えているという趣旨の補償という言い方をされていると思いますが、一般的に、例えば風評被害等が起きた場合には風評被害認定委員会というものが、第三者的な立場で、適正に審査をして、被害を認めれば補償をするという仕組みはもうできております。それから、原子力施設ができたことによって、逆に雇用が大きく、地域の経済にも大きく貢献していることをご紹介させて頂きたいわけですが、原子燃料サイクルの立地によって、これまで約2兆円を超える工事の発注額が出ております。この内、県外企業への発注額は約3600億円、大変経済情勢が厳しい中であっては地元企業に多くの仕事が落ちていることは確かであります。また、日本原燃の地元雇用、社員も約2千名の内、1000名が県内出身者であると聞いております。さらに、この原子燃料サイクルの立地によって、今後メンテナンスなどの関連業務、これを行う企業を、あるいは原子力関連の研究機関等の立地もこれから出てきますし、また、既にあります。その他に電気事業連合会仲介による県内各地への企業誘致、これもございます。これらをあわせますと、メンテナンス等の関連会社が27社、社員数で約1千名、その内県内の出身者は800名になっております。誘致企業については、18社、21事業所、社員数は約1千名になっております。その他皆さん、ご承知だと思いますが、電源三法交付金等について地域振興のために、青森県に交付金の交付がある。そういったことも考えると、この原子燃料サイクル施設そのものが、地域の経済に与えている影響は大変大きい物があると、私どもは考えております。

【会場から】

現実では、青森県は有効求人倍率は最低で、その現実をみれば、あんたが言っていることは嘘であり、雇用にはなにもいい影響を及ぼしてはいない。あんたがそういうことを言うなら、サントリーの社長に聞けばいい。サントリーの社長に聞けば、青森県に作っても、原子力のために物が売れない、売れないから作るわけにはいかないと言っている。現実には有効求人倍率が全国最低というのはいったいどうしたことが。これははっきりしたことであり、あんたが言っていることは皆うそ。雇用にはなにもいい影響は及ぼしてはいない。当然、補償が必要である。

【司会】

はい。今のはご意見として伺っておきます。その他、せっかくの機会ですから、ご意見・ご質問等があれば、ご発言をお願いしたいと思います。よろしいですか。判りました。また、この場では発言しづらいということがあれば、入り口に用紙を置いておきます。それにご質問・ご意見を記入頂ければ、必ず私ど

もの方から、関連機関の方から郵送しますので、住所と氏名をお書きの上、ご意見・ご質問を出して頂ければ、後日必ず郵送させていただきます。それでは、終わりに当たりまして、副知事よりご挨拶を申し上げます。

【青森県 蝦名副知事】

本日、皆さんお忙しい中、お集まり頂きまして、大変貴重なご意見を賜ることができました。私ども、皆さんから寄せられたご意見につきましては、知事に報告し、このMOX施設の判断材料にさせていただきたいと考えております。皆さん、ご承知の通り、2050年という、今日東奥日報に出ておりましたけど、人口が現在の60億から90億になると、91億でしたか、一方では2050年には化石燃料、化石燃料とは石油だとか、石炭だとか、ウラン、天然ガスも含めてでございますけれども、これの生産量が減少に入るとOECDが予測しております。一方で人口が増え、エネルギーをどんどん消費していく。一方で、化石燃料が2050年には減少になる。こうなった時の、いわゆる2050年に生きている人類というものがどうやってエネルギーを確保するというのは大変な問題に直面すると思います。従って、新しいエネルギーを人類が持たなければ、人類は非常に厳しい環境に置かれることは明々白々でございます。今、原子力、廃棄物等が出て、危険な物でもございますし、本来であればこういった物がなくて、ソーラーシステムだとか、風力発電だとか、太陽光だとか、そういう物で賄えるのであれば、それはそれで大変良いことではございますが、現在1%程度しかございません。そして、経済産業省が目標に立てている2010年で2%ということでございます。これで人類のエネルギーを賄うことはできないのであります。従って、原子力は現在35%となっておりますが、これをいかに安全に使っていくかということが非常に大切だと思います。そして、そのためには国・県、そして事業者を含めて、安全・安心に最大限の努力を図っていく必要があると思います。今日はいろいろな会議の在り方も含めて、いろいろご意見がございましたけれども、まさにその通りでございます。県民の多くがこの問題に関心を持って頂き、皆さんから私どもに厳しいご意見を頂ければ、私ども原燃も含めて緊張感をもって対応をしていくこととなります。最近の教育問題を含めても、今の子どもたちを見ている時に、その甘く育てた子どもたちが本当に立派に育ったかというところではない。むしろ厳しく育てられた子どもたちの方が社会人として立派に育っている方が多いと思います。そういうことを考えていけば、皆さんの厳しいご姿勢、厳しいご指摘、ご意見、そういうものを県自体も緊張感をもってやりますし、また、私どもも日本原燃に厳しく申していきますし、国に対しても申し上げたいと考えております。すなわち、安全であるか、安全を守っていくためには、皆さんのご意見が必要なのでございます。本当に今日はありがとうございました。

【司会】

長時間、ありがとうございました。これをもちまして説明会を終わらせて頂きます。どうもありがとうございました。